

緑内障

Glaucoma

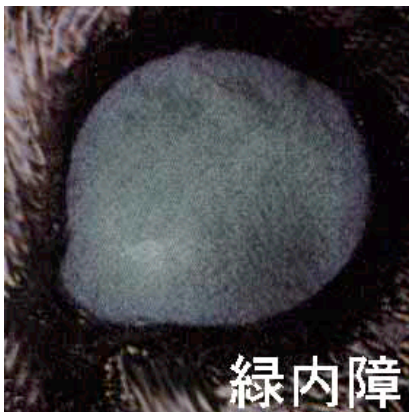
緑内障とは様々な原因により眼の中の液体（眼房水）の流れが悪くなり、眼房水の量が増え過ぎ、眼の中の圧力（眼球内圧）が異常に高くなることにより起こります。犬の場合はその原因がよくつかめない原発性緑内障が多く、猫の場合は外傷や他の眼科疾患に続発することが多いようです。急性緑内障は緊急の対処を必要とする疾患のうちの一つです。

原因

緑内障の原因としては、遺伝性、腫瘍や炎症に続発するもの、外傷、他の眼科疾患の二次的症候などが考えられます。この他、特発性緑内障といってこれといって原因が特定できないものもあります。

症状

緑内障の症状は眼圧の上昇程度により様々です。通常激しい目の痛み、瞳孔の反射能力の低下、瞳孔の散大、角膜浮腫（角膜が腫れること）、眼が全体的に飛び出したように見える、涙の増加などです。症状の進行にあわせて視力障害が進み、ついには失明してしまいます。



-猫の緑内障-

但し、一般的に犬に比べると猫の緑内障の発症は少ないと言われています。

緑内障

診断法

緑内障かどうかはある程度視診で判断できます。しかし、状態を適格に判断するためには詳しい検査として検眼鏡などを用いたり、眼圧検査（なかなか検査させてくれないこともあります）を行う必要があります。

治療法

緑内障の治療は、外科的療法と内科的療法に分けられますが、このうち内科的療法のみでは緑内障をコントロールできない場合が多いように思います。

内科療法では利尿剤や神経薬剤、酵素阻害剤などを用いて、眼内圧を下げたり、眼房水の産生を抑制したりします。

外科的療法には様々なものがあります。大きく別けると内科療法と同じように眼房圧を低下させるために眼房水の逃げ道をつくってあげる手術と、眼房水の産生を抑制する方法です。外科的療法は一般の病院で行うのではなく、専門的な知識と技術を備えた獣医師や大学病院のレベルとなりますので、外科的療法を希望される場合は主治医の先生と十分に相談する必要があるでしょう。

自宅での看護法

処方された薬剤はきちんと用いましょう。また、点眼薬は1回に大量に用いるのではなく1回は1滴でいいですから、1日の回数を増やしてあげたほうが効果的です。

動物は自分が眼の疾患にかかっていることが解りません。このため、自分の前足でひっかいたりして新たに角膜などに損傷を与えることがあります。点眼のたびに眼に傷や新たな異常がないか注意して観察するようにしましょう。また、眼をこすって新たに傷を作らないよう、エリザベスカラー（動物病院で入手できる）を装着して保護するようにしましょう。

予防法

基本的にはありませんが、他の眼科疾患から二次的に起こることがありますので、眼の異常を感じたら早期に獣医師の診察を受けることが、その発症を予防することになるでしょう。

メモ

よく眼が悪いと動物に人間の目薬をさす方がいらっしゃいます。そのおかげでかえって症状を悪化させてから病院へ連れてこられます。素人療法が一番危険で状況を悪化させますから、まずは獣医師の診察を受けてきちんとした薬剤を処方してもらってください。

重要なことは、緑内障は早期に治療が必要な緊急疾患で、時間との戦いであることを覚えておいてください。